

赤十字NEWS

July 2016 Vol.914
http://www.jrc.or.jp



日本赤十字社
人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



© Ichigo Sugawara

6月8日、避難所に設置されたミスト発生器の前で

熊本地震災害 "世界"から涼しい風のプレゼント 「冷たくて気持ちいい！」

日本赤十字社が設置したミスト発生器を前に、熊本地震の避難所の子どもの笑顔が元気いっぱい弾けました。日赤では、高齢者らの見守り活動や母子保健事業など、海外救援金を財源とする健康支援事業を6月からスタート。避難生活の環境改善へ向けて、ミスト発生器や熱中症対策グッズなどの配布も行っています。(2面に詳報)

CONTENTS

TOPICS

熊本地震 健康支援事業
心身の健康を守る支援を展開
LOVE in Action Meeting(LIVE)
アーティストらが献血を呼び掛け
ANAすずらん贈呈
全国の赤十字施設へ「しあわせ」の花
健康豆知識 脳梗塞

2 TOPICS

平成27年度
日本赤十字社の
決算概要

3 SPECIAL

Let's join救急法!
そのとき、私は
いのちを救った
体験者の声

4 5

AREA NEWS

広島・岡山・群馬・
東京/神奈川・
近畿ブロック
全国看護学生
作文コンクールで
最優秀賞
輸血経験者から
感謝のメッセージ

6 TOPICS

国連世界
人道サミット
近衛会長(連盟)
が本会議で発言
Voice&プレゼント

7 WORLD

インドネシア・
コミュニティー防災事業
スマトラ島での
第2期事業スタート
新連載
人道支援の現場から①
パレスチナ・ガザ地区
代表部 片岡昌子



今月の 出 会 い



ガールズバンド
Silent Siren
(サイレントサイレン)

音楽で勇気を届けたい

「お父さん世代やおばあちゃん世代にも愛される国民的ガールズバンドを目指しています！」という20代の4人組。6月13日に行われたライブイベント「LOVE in Action Meeting (LIVE)」(東京国際フォーラム)では、会場を埋めた同世代の若者を前に「今日献血について学んだことをアクションにつなげていきましょう」と訴えました。

LOVE in Action Meeting (LIVE) への出演は昨年に続いて2回目。昨年は公演前にベースのあいこちゃんが献血に初挑戦しました。そのことをブログで紹介したところ「私も行きました！」というコメントが何人ものファンから寄せられたといいます。他のメンバーも学校献血などで献血を経験。自分たちの実体験を踏まえ、「献血っ

て短時間だし、気軽にできるという情報を発信していきたい」「待合室もカフェの雰囲気ですらリラックスできます！」と声を揃えます。

4月スタートの全国ツアーは、予定していた熊本公演が地震により延期に。その後のライブ会場では、募金箱を設置してファンに義援金を呼び掛け中です。

「音楽で誰かを勇気づけたい、人の力になりたい—そんな気持ちで全国を回っています。一人でもたくさんの人に私たちの曲を聴いてほしいと思っています」と語りました。

PROFILE

2012年11月にデビュー。メンバーは、ボーカル&ギターのすず(吉田華)、ドラムのひなんちゅ(梅村妃奈子)、ベースのあいこちゃん(山内あいな)、キーボードのゆかるん(黒坂優香子)。4人全員が読者モデル出身のガールズバンド。2016年ツアーファイナルとして初の横浜アリーナ公演を開催。その後5カ国6都市を回るワールドツアーを実施。

熊本地震 健康支援事業 高齢者や母子(乳幼児)対象

心身の健康を守る支援を展開

日本赤十字社は、熊本地震で避難生活を続けている高齢者や障がい者、乳幼児を抱える母親らを対象とした健康支援事業を6月から行っています。海外の赤十字社などから寄せられた「海外救援金」を財源とした取り組みで、7月末まで続けられる予定です。

震災後、体を動かさない生活が続くことにより、特に高齢者や障がい者の生活不活発病や慢性疾患の悪化が懸念されています。健康支援事業では、看護師が避難所を巡回し、身体機能が低下し



ミスト発生器の前で談笑

ました。日赤は看護師を派遣し、健診の再開を支援するとともに、看護師や奉仕団員による母子交流活動を実施。地震で子育て負担が大きくなった母親のこころのケアにも取り組んでいます。



介護赤十字奉仕団が健診をサポート



接骨・整骨赤十字奉仕団による健康維持支援。施術に「気持ち良い！」の声



日赤の看護師と保育士、奉仕団員が、村の保健師、歯科衛生士、管理栄養士と共同で医療チームを構成



「ママ友で集まる機会がなかった。情報交換ができて、本当によかった」

また、避難所の環境改善のため、夏場の対策としてミスト発生器や冷たいアイスマスク、熱中症予防のあめや虫よけスプレーなどを届けています。

平成28年熊本地震災害義援金

受付状況 189億6,800万4,958円(358,450件) (平成28年6月21日現在 集計分)

送金状況 150億7,283万3,443円(平成28年6月27日現在)

受付期間 平成29年3月31日(金)まで ※延長しました

受付口座 郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)

口座記号番号 00130-4-265072 口座加入者名 日赤平成28年熊本地震災害義援金

※銀行振り込み、熊本県支部、大分県支部、信用金庫などでも受け付けています。詳しくは日赤のホームページ(<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/28/>)をご覧ください

ANAすずらん贈呈

全国の赤十字施設へ「しあわせ」の花

熊本では入院中の被災者も激励

「しあわせ」の花言葉を持つすずらんの贈り物が6月2日、ANA(全日空グループ)から日本赤十字社の病院など全国47施設に届けられました。熊本地震では最前線で傷病者救護にあたった熊本赤十字病院にも6人のANA職員が訪れ、すずらんを贈呈。入院患者らを激励しました。



ANAによるすずらん贈呈は昭和31年から続けられているもので今年で61回目

贈呈式では、客室乗務員の安戸仁美さんと小野寺重理さんが「皆さんを勇気づけたい」とあいさつ。2人から切り花としおりを受け取った石田フジ子さん(79)は「自宅が益城町にあり大変な目に遭いました。育てていた花も駄目になってしまいました。すずらんをもらってバ

LOVE in Action Meeting (LIVE) アーティストらが献血を呼び掛け

日本赤十字社は「世界献血者デー」前日の6月13日、若い世代に献血の大切さを訴えるライブイベント「LOVE in Action Meeting (LIVE)」を東京国際フォーラム(東京都千代田区)で開催しました。

「献血は、愛のアクション」と呼び掛ける献血推進プロジェクト「LOVE in Action」は、2009年にスタート。ライブは全国各地での推進活動の集大成で、DAICIE Silent Strain「氣志團」ナオト・インティライミ(出演順)の4組の人気アーティストが音楽とパフォーマンスを繰り広げました。

氣志團の綾小路翔さんは「父親が以前、輸血で助けられた。ぜひみんなも献血への興味を持ってほしい。俺た



知って良かった! 日赤のドクター&ナースが教える健康豆知識

②5 脳梗塞—危険因子を知って予防に努めましょう 京都第二赤十字病院 脳神経内科部長 永金義成



▲カリウムには、ナトリウム(塩)を体外排出する効果が。減塩とともに、カリウムを多く含む野菜や果物の摂取が大切です

京都第二赤十字病院
〒602-8031 京都府京都市
上京区春帯町 355-5
TEL 075-231-5171 (代表)

体の左右どちらかだけにマヒやしびれが発生する。言葉が出てこなかったり、ろれつが回らない—突然のこうした症状は、脳梗塞によるものかもしれません。手当てが遅れるといのちを失ったり、重い障害が残る場合も。症状がいったん治まったとしても、本格的な脳梗塞の前触れの可能性もあります。直ちに救急車を手配するなど、一刻も早く専門医の診察を受けるようにしてください。

脳梗塞は、脳内の血管が詰まることで脳細胞に血液が行きわたらなくなる病気で、その原因により次の三つのタイプに大別されます。一つは、首や脳内の太い血管に動脈硬化が発生する「アテローム血栓性脳梗塞」です。

二つ目は、主に高血圧による影響で脳内の細い動脈が詰まる「ラクナ梗塞」。心臓内でつくれた血栓が脳内で詰まってしまふ「心原性脳塞栓症」は、何の前兆もなく突然襲って来ることが多く、死亡率も高いのが特徴です。いずれのタイプの脳梗塞もリスクが高いのは高齢者ですが、後期高齢者になる前から予防と健康管理が大切です。

予防のポイントは脳梗塞のタイプによって少し異なります。「アテローム血栓性脳梗塞」の危険因子は、高血圧症・糖尿病・脂質異常症・喫煙の4つですが、2つ以上ある方はリスクも大。血圧、血糖値、コレステロール値を正常に保つことや、禁煙をする努力が必要です。「ラクナ梗

塞」の場合、特に血圧のコントロールが重要なので、家庭で血圧を計る習慣をつけましょう。135/85mmHg以上は高血圧、125/80mmHg未満が正常です。この値を目指して、毎日少しずつでも運動を続け、食事の際は減塩を心掛けてください。

一方、「心原性脳塞栓症」には、心房細動という不整脈を見つけることがポイントです。心臓内の血栓を予防する抗凝固薬が有効です。健康診断の心電図検査で心房細動が発見された場合は早めの専門医受診をお勧めします。なお、「心原性脳塞栓症」以外は男性の患者さんが目立ちますので、男性はより健康管理に気を配っていただきたいと思ひます。

平成27年度

日本赤十字社の決算概要を報告します。

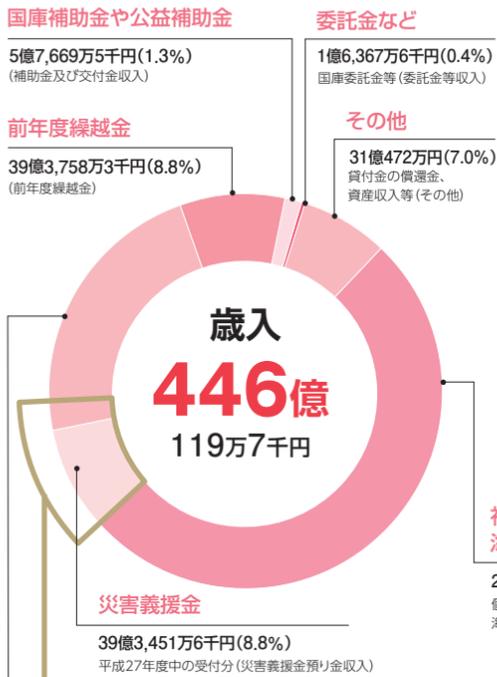
平成27年度、日赤は一般会計と3つの特別会計(医療施設、血液事業、社会福祉施設)を合わせて総額1兆3,850億円を超える規模の事業を展開しました。個人・法人の皆さまからいただいた社費(会費)や寄付金を主な財源として実施した活動にかかる一般会計と、特別会計の歳入歳出は以下のとおりです。

※下記決算額は、千円未満を切り捨てているため、合計額とは一致しません。



平成27年度一般会計

歳入



義援金

50億7,044万6千円



被災者に設置される「義援金配分委員会」を通じて全額被災者に届けられる義援金については、平成27年度中に新たに39億3,451万6千円を受け付け、前年度からの繰入額と合わせた50億7,044万6千円のうち、41億9,914万4千円を該当の配分委員会に送金しており、残りを順次送金される予定です。

歳出

国内の災害救護活動のために

64億4,841万3千円(14.5%) ※災害義援金41億9,914万4千円を含む(災害救護事業費)



翌年度以降の継続事業のために

77億3,069万7千円(17.3%) 翌年度以降に実施する災害救護活動、国際救護活動等のために備える積立金(積立金支出) ※災害義援金8億7,130万1千円を含む



地域のボランティア活動支援のために

20億7,744万4千円(4.5%) 地区・分区分への事業費・事務費の交付金(地区分区分交付金支出)

広報・普及活動のために

25億1,107万8千円(5.6%) 赤十字社員への参加呼びかけや広報活動の費用(社振振興費)

歳出 446億 119万7千円

総務管理のために

49億9,540万9千円(11.2%) 支部、病院、社会福祉施設の事務局・本部機能としての事務経費等(その他)

次年度繰越金

38億4,505万6千円(8.6%) (次年度繰越金)

東日本大震災復興支援のために

42億8,728万1千円(9.6%) 福島県浪江町民の健康調査等の生活再建支援や宮城県石巻医療圏の医療支援など



海外での救援・開発協力活動のために

42億5,834万4千円(9.4%) (国際活動費)



「守る」をひろめる活動のために

33億3,065万5千円(7.5%) 救急法などの講習会、奉仕団・青少年赤十字活動普及の費用(社会活動費)

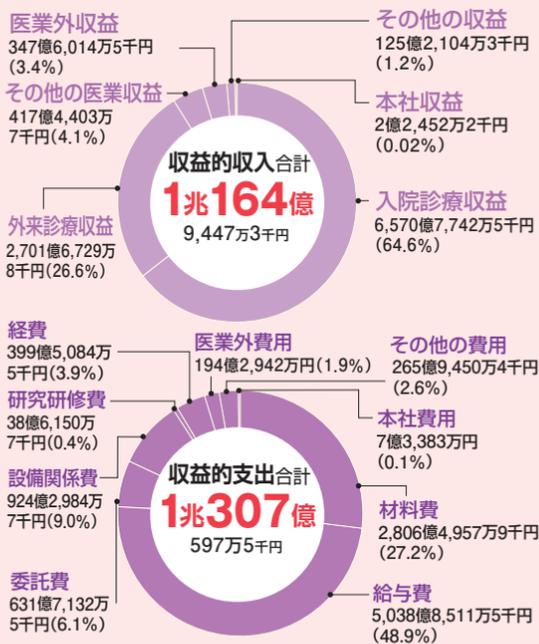
赤十字施設の設備投資のために

52億4,899万5千円(11.8%) 建物の整備、資産の維持管理等の費用(資産取得及び資産管理費) 病院血液センター、社会福祉施設の基盤整備の費用(基盤整備交付金・補助金支出) 災害救護設備や救急医療体制の設備等の費用(指定事業地方振興費)

平成27年度特別会計

医療施設特別会計

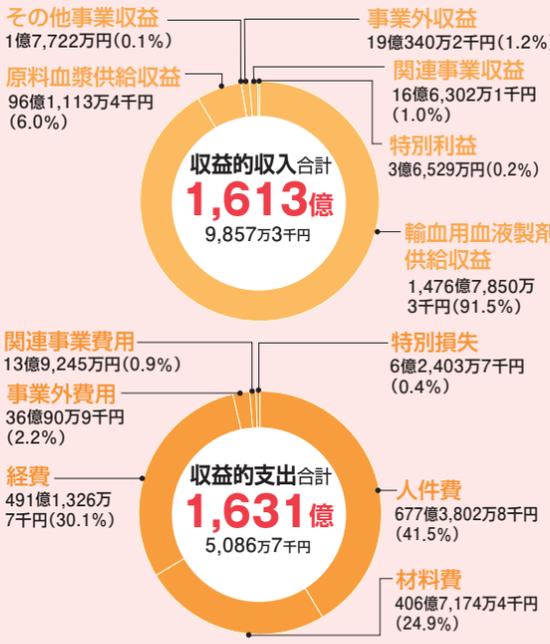
診療報酬を主な財源とする赤十字病院などの運営にともなう収入、支出は以下のとおりです。 ●本社・医療施設間の内部取引は除いています。



収益的収入支出差引額 △142億1,150万1千円

血液事業特別会計

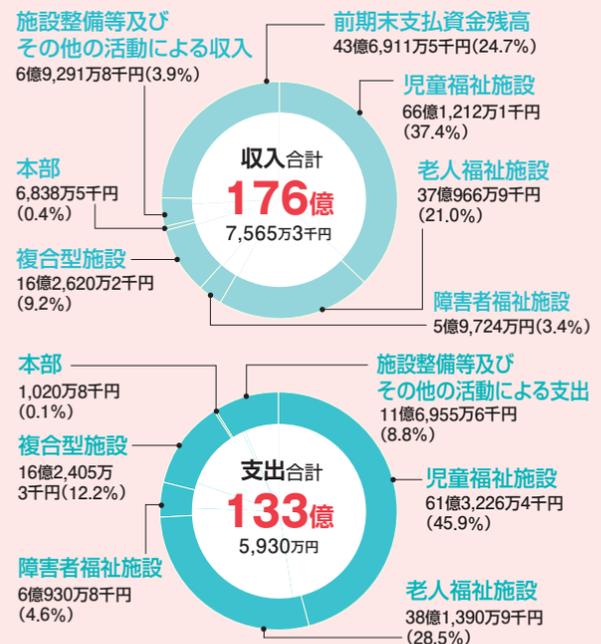
医療機関への血液製剤の供給による収入を主な財源とする赤十字血液センターの運営にともなう収入、支出は以下のとおりです。



収益的収入支出差引額 △17億5,229万4千円

社会福祉施設特別会計

措置費収入、介護保険事業収入などを主な財源とする各種社会福祉施設の運営にともなう収入、支出は以下のとおりです。



収入支出差引額 43億1,635万2千円

詳細は日本赤十字社ホームページ(業務報告まで): www.jrc.or.jp/about/financialresult/

常任理事会開催報告

平成28年6月23日、本社において平成28年度第3回の常任理事会が開催されました。

記

1 理事会に付議する事項について (福島赤十字病院の移転新築工事、さいたま赤十字病院の移転新築の追加工事等及び諏訪赤十字病院の増築工事にかかる資金の借入) 2 理事会及び第88回代議員会に付議する事項について (役員選出、平成27年度事業報告及び収支決算の承認) 審議の結果、理事会及び第88回代議員会に付議する事項については、原案のとおり本年6月24日開催の理事会及び第88回代議員会に付議することが了承されました。

理事会開催報告

平成28年6月24日、全国社会福祉協議会会議室(新霞が関ビル)において平成28年度1回目の理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

記

1 第88回代議員会に付議する事項について (役員選出、平成27年度事業報告及び収支決算の承認) 2 資金の借入について (福島赤十字病院の移転新築工事、さいたま赤十字病院の移転新築の追加工事等及び諏訪赤十字病院の増築工事にかかる資金の借入) 審議の結果、いずれも原案のとおり議決されました。 また、平成28年熊本地震災害に対する日本赤十字社の対応及び青年赤十字奉仕団の活動、ナール地震災害に対する復興支援事業の進捗及び社長委任事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

第88回代議員会審議結果報告

平成28年6月24日、新霞が関ビル(全社協・灘尾ホール)において開催した第88回代議員会における審議結果は左記のとおりです。

記

第1号議案 役員選出について 理事1名が次のとおり選出されました。 理事 武田 政義 第2号議案 平成27年度事業報告及び収支決算の承認について 原案のとおり議決されました。



道に倒れていた男性を救助!

将来はいのちを救う現場に

姫路赤十字看護専門学校 阿部 可奈子さん(26)

昨年12月、通りかかった県道の脇に倒れていた男性(61)を救助しました。呼吸がなく、脈も確認できなかったため、すぐに胸骨圧迫を行い、近くにいた別の男性に人工呼吸をお願いして、救急車が来るまでの10分ほど心肺蘇生を続けました。その後、ドクターヘリで搬送された男性は、病院で意識を取り戻し、仕事にも復帰できたと聞いています。

あの時、バスの運転手さんや別のドライバーの方など、私より先に男性の側に駆けつけた人がいたのですが、何もできずただ見ているだけでした。自動車の教習所でも一次救命処置は習いますが、知識として覚えること、知識を使うことは違うんですね。看護学校の授業で救急法を学んだ私は、焦ることなく、自信を持って対応できました。日赤の救急法が実際に使うことを想定していて、その通りに実行すれば誰でも人のいのちを救うことができる内容なんだと強く感じました。

祖母が病気がちなことから、私は看護師を目指すようになり、いったん就いた

仕事を辞めて看護専門学校に入学しました。今回のことで救急医療にも興味を持つようになりましたが、将来は人を助ける現場で活躍できる看護師になりたいと思っています。



Let's join 救急法!

そのとき私は

いのちを救った体験者の声



周囲の誰かが突然倒れたり、事故に遭ったら。そんな非常時に備えて、AED(自動体外式除細動器)の使い方や心肺蘇生などを学ぶのが赤十字救急法です。「本当に役立つ?」「救命の場に遭遇するなんてある?」。こうした疑問に答えるため、実際に救助を経験した5人の方にお話を聞きました。次に救命現場に立つのは誰でしょうか。救急法を学ぶことが、あなたの身近な人の救命につながるかもしれません。

餅を詰まらせた親戚を救助!

親戚のいのちを救った救急法

看護師 金澤 優子さん(60)

5年ほど前になりますが、近所に住む親戚がのどに餅を詰まらせてしまったんです。私が駆けつけた時は、意識を失い脈も感じられない。背中をたたいても駄目でしたので、うつ伏せ状態のまま、肩甲骨の下を強く叩く方法を試しました。先輩指導員から教えてもらった方法です。何度か試すうちに口から餅が出てきて、ほっとしましたね。

実は私は看護師なんですけど、勤務先は健診機関なので心肺蘇生とか経験がなかったんです。でも看護師としていざというときに何もできなかったら困ると思い、25年くらい前に救急法を受講。その後は指導員の資格も取りました。5年前を思い出すたびに、救急法の勉強を続けてきて良かったと思えますね。

講習会を受講した方の中には、海外旅行



中に空港で倒れていた外国人に心肺蘇生を実施したという人もいました。いざというときに動ける勇気を与えてくれるのが救急法です。子どもを持つ親御さんなどは、ぜひ受講していただきたいです。

突然倒れた高齢男性を救助!

やじに負けずに救護活動

整体師 水田 仁さん(42)

整体の仕事をしている関係で、高校の部活のトレーナーを引き受けています。もしもに備えておこうというのが救急法を受講した理由です。昨年8月に2回目を受講。その3カ月後の救助活動でした。

子どものマラソン大会の応援中に目の前の高齢男性が突然、倒れたんです。呼吸はありましたが、念のためAEDと救急車を周りの方をお願いして、僕はその方の状態を観察。やがて呼吸が止まってしまい、胸骨圧迫を開始しました。救急車到着前に意識が戻り、病院搬送後、回復されたそうです。

実は、状態の観察をしている時、周囲から「見てるだけか!」のヤジが上がったんです。でも講習で指導員から観察の重要性を聞いていたので、冷静に対応できました。



また講習の後、10月には県支部主催の救急法大会にも出場しましたが、これが良い復習になりました。繰り返しの学習が、落ち着いて行動できる自信につながったと思っています。

Special Interview

「AED普及はライフワーク」

神奈川県知事(日赤神奈川県支部長) 黒岩 祐治

神奈川県は6月11日に「かながわAED宣言」を発表しました。AEDの県民認知度100%を目指し、AEDが何かを「知ろう!」、使い方を「学ぼう!」、設置場所を「覚えよう!」の3つを呼び掛けています。

消火器は、火が起きた直後に使えば火事を消せます。それと同じで、人が倒れた直後にAEDを使えばいのちを救えるかもしれない。救命救急の現場で市民が助け合える環境を目指すのが「かながわAED宣言」です。



献血イベント会場にて、一次救命処置のデモンストラレーションをする黒岩知事

日本ではじめてAEDを紹介したのは私なんです。フジテレビの報道番組「FNNスーパータイム」のキャスター時代に、キャンペーン報道として救急医療の問題を2年間にわたり追いかけてきました。平成元年頃に「心肺停止の際に電気ショックを与える機械がこんなにコンパクトになった。ぜひ普及させよう」と訴えました。

報道でAEDを紹介した私が、いま知事としてAED普及に携わっている。立場は変わりましたが、実は自分の中の意識はあまり変わっていません。良い事は広める、おかしいことは止めさせる。ただ、ジャーナリストは外からそれを提起するだけですが、知事は中から実行できる。いのちの問題は自分のライフワーク。できることはどんどんやっていきたい。

すでに県立学校の教職員全員がAED講習を受講し、県職員全員の受講も間もなく終了します。今度は県民全員に広げていきたい。一人でも多くのいのちを救う環境を整えていくのが、自分の使命だと思っています。

周りの人のいのちを救う為に
番組の救急医療のキャンペーン報道では、

日本赤十字社神奈川県支部長を務める黒岩知事。フジテレビのキャスター時代から救急医療の普及に尽力を注ぎ、現在もAEDの普及に力を入れています。救急法普及における思いや、日赤の在り方など、黒岩知事にお話を伺いました。

「現場に駆け付ける救急隊に救命の医療行為を認めることが必要だ」と訴え続けました。当時は「医師以外の医療行為は許されない」という医師法の壁により、救えるいのちが救えていなかった。このキャンペーン報道の結果、「救急救命士」という国家資格が誕生し、現在のように現場や救急車の中で二次救命処置が可能になりました。

しかし救急での救命率を上げていくにはそれだけでは不十分。倒れた人のすぐ側にいる人が、救急車の到着までに一次救命処置をすることが大事です。番組では日赤の救急法講習も取材し、市民の方が心肺蘇生法を学ぶことの重要性やその意義を伝えました。

救急法を学ぶことは、大規模災害などに備えた危機管理にもつながります。東日本大震災や熊本地震などを経て、防災意識を高めた人が大勢いると思いますが、救急法もそうした備えの一つ。災害時の対応は「自助・共助・公助」ですが、「自助」で生き延びた後、周りの人のいのちを救う「共助」に使える技術と知識が救急法には詰まっています。

日赤の救急法講習ではAEDの使い方も学べますし、短時間コースもできて受講しやすくなりました。ぜひ多くの方にご参加いただきたいと願っています。



プロフィール
1954年兵庫県神戸市出身。1980年早稲田大学政経学部卒業。フジテレビジョンに入社。1988年「FNNスーパータイム」のキャスターに。ワシントンD.C.支局特派員、「(新)報道2001」キャスターを務めた後、2009年にフジテレビを退職し、国際医療福祉大学大学院教授に。2011年神奈川県知事選挙で初当選し、現在2期目。



頭を打った男児を救助!

「赤十字」の持つ安心感

社会福祉施設長 満枝 政文さん(43)

中学校の体育祭の応援に行った3年前、体育館の裏である母親が2歳くらいの男の子の両足をつかんで揺さぶっていました。「のどに物を詰まらせたか」と聞いてみたら、「頭を打ち、おう吐した」とのこと。呼吸もありません。すぐに人工呼吸を試みたところ、幸い息を吹き返しました。

救急法指導員として幾度となく心肺蘇生を繰り返してきたので、冷静に対応できましたが、救急隊に引き継いだ直後、へたり込んでしまいました。張りつめていた緊張がとけたんですね。知識だけの救急法では、いざというときに役に立たないことがあります。体が覚え込むまで復習することが大切です。

後で知ったのですが、この母親は看護師の方でした。倒れた子どもを前にパニック



クになってしまったそうです。それでも私が「日赤の救急法指導員です」と告げたことで救助を任せてもらえ、救命につながった。「赤十字」の持つ安心感は大きいですよね。

心停止の高齢者を救助!

テキストはトイレに置こう

行政書士 日野 達弥さん(57)

救急法指導員になって15年ほどたちますが、人に教える立場として、正確な知識と技術を磨こう、いつでも実践できる準備をしておこうという心構えを持ってきました。その結果これまでに、倒れて脳震とうを起こした方や交通事故で負傷された方などの救助を経験。3年前には心停止状態になった高齢者に心肺蘇生を行い救助することができました。

講習会では、自分のこうした人命救助の経験をお話します。その上で逆説的ですが「心臓を動かそうと気張らなくていい」と強調しています。胸骨圧迫で脳への血液さえ絶やさなければ、蘇生の可能性は上がります。なので「鼓動は戻らないかも…」と怖がらず、いざというときには行動してほしいんです。

もう一つの訴えは「大切な人が倒れたとき、何もできなかったら後悔しますよ」ということ。だから講習内容の復習をお願いします。テキストもトイレの中に置いておく。毎日目にする、家族の方も見てくれます!



核のない平和な未来を ジュノー博士へ誓い

広島県

広島県支部と広島県医師会は6月5日、「第27回ジュノー記念祭」を広島平和記念資料館で開催しました。

人類史上最初の原爆により焼け野原と化した広島に、15トンもの医薬品を届けると共に、自らも治療にあたったジュノー博士(当時ICRC駐日首席代表)。記念祭はその偉業と功績を後世に語り継ぐため毎年開催されているものです。広島少年合唱隊、ガールスカウト広島県連盟、日本ボーイスカウト広島県連盟など将来を担う若者が参加し、平和への思いを新たにしました。



広島少年合唱隊による演奏



広島赤十字病院内で被爆した当時看護学生だった林信子さんもあいさつ

自動車レースとコラボ サークिटで義援金募集

岡山県

5月28、29日に岡山国際サーキットで開催されたスーパーフォーミュラ第2戦岡山大会で、赤十字チャリティーオークションなどが行われ、熊本地震災害義援金として48万円が寄せられました。

オークションは、レース主催者の株式会社日本レースプロモーションと日本赤十字社が昨年からの協力関係を締結したことで実現したものです。各参戦チームは、選手のサイン入りグッズを多数提供。「熊本の復興に向けて、できることから始めよう」という司会の掛け声もあり、次々に落札されました。



決勝レースの前には、レースクイーンが赤十字旗を掲げて行進



各チームのピットには募金箱も設置され、選手やスタッフが協力

JRC高校生メンバーが熊本へ応援ムービー

群馬県

平成28年度群馬県青少年赤十字(JRC)高校生協議会総会が5月7日に開催され、県内の高校生メンバー231人が参加。グループワークでは、熊本地震の被災者への応援メッセージムービーの作成にも取り組みました。



全員参加で撮影された応援メッセージムービー

総会は高校生メンバーが企画・運営を担当。メンバー同士の交流も重視しており、グループワークはその一環として行われました。応援メッセージムービーは、熊本県支部を通じて、被災地のJRCメンバーに送られる予定です。

戦争と「生きる力」テーマの短編映画上映

東京都/神奈川県

6月2～26日まで、東京、神奈川で開かれた短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル&アジア(SSFF&ASIA)」で、「戦争と「生きる力」」をテーマにした作品を集めたプログラムが組まれ、上映されました。同プログラムは赤十字国際委員会がSSFF&ASIAと協働で昨年立ち上げたもの。1969年にカナダ滞在中のジョン・レノンを訪ねた少年のテープをもとに作られたアニメ映画やアメリカとイランの外交交渉の通訳たちをコミカルに描いた作品など10作品が上映されました。



フランスの短編映画「英雄たち」のステファン・ランドウスキ監督によるトークイベントも

赤抜き塗り絵で血液の大切さをPR

近畿ブロック

ロハス(健康と持続可能な生活スタイル)を目指し、5月13～15日に開かれたイベント「ロハスフェスタ2016 in 万博記念公園」で近畿ブロック血液センターはワークショップを開催。小学生の子どもを中心とする約100人が来場しました。「この世界! 血液がないとあかん!!」と題したワークショップで、子どもたちは赤色抜きの塗り絵に挑戦。保護者には、献血の現状説明や見学展示ホールの案内を行い、献血啓発活動も行いました。



子どもたちに「大きくなったら献血してくれる?」と聞くと、元気に「する!」

「強く優しい看護師に」作文表彰式で決意

富山県



6月4日に都内で行われた表彰式で受賞作品を朗読した竹内さん

第7回全国看護学生作文コンクールで、富山赤十字看護専門学校3年の竹内郁恵さんの作品「10歳の私から届いた手紙」が最優秀賞・埼玉県知事賞に選ばれました。また同校3年の南塚蘭琳さんと、姫路赤十字看護専門学校の蔭山こころさんの作品が佳作を受賞しました。このコンクールは特定非営利活動法人国際看護支援センターが事務局を務める実行委員会が主催。「私と看護」を題材に、全国の看護学生から2216作品の応募がありました。竹内さんは、「看護師は生涯勉強です。お世話になったすべての方がたに恩返しできるように責任と自覚をもって日々精進していきたいと思っています」と述べています。

第7回全国看護学生作文コンクール 最優秀賞

10歳の私から届いた手紙

富山赤十字看護専門学校 竹内郁恵

2016年1月10日。私が成人を迎えた日、10年前の私から手紙が届きました。小学4年生の頃、授業で2分の1成人式を行ったときにハタチの私に宛てて書いた手紙です。

「お元気ですか? 10歳の私です。今、私は学校に行っていない。入院して、退院して、をくり返しています。お母さんはベッドの横にふとんをひいて毎日病院にとまっています。仕事をやめて、今はずっと私のそばにいます。最近背中が痛くて眠れなかったり、一人で歩くこともできないくらいに体力が落ちました。昨日はお父さんにおんぶしてトイレまで連れて行ってもらいました。今日の朝、点滴が外れたからお母さんにお風呂に入れてもらいました。1週間ぶりでした。背中を流してもらっているとき、お母さんが泣いているのが鏡越しに見えました。お母さん泣いてるところ初めて見た。その時に、病気があんまり良くないんだなって何となく気がついていました。こんなこと誰にも言えない

から、ハタチの自分にだけそう言っておきます。今はあんまり体調良くないけど、調子が良かったときもあって、バリ島に旅行に行っていました。帰りの飛行機の中でお母さんと、大人になつたらまた一緒に来ようねって約束しました。でも、何年後、とか、将来、っていう話をするのがすごくこわい。だってそのころ、生きているか分からないから。でも、大人になつたら看護師さんになりたいです。担当の看護師さん、すごくステキです。私もあんな看護師さんになりたい。それが今の私の夢です。

最後に、ハタチの私に聞いておきたいこと。10年後は何をしていますか? 楽しいですか? 幸せですか? ちゃんと友達いますか? 看護師になるための学校に行っていますか? 私は生きていますか?」入院中の出来事や当時の思いが書き綴られていました。入院のため学校にはほとんど通っておらず、保健室登校や不登校を繰り返していました。この手紙を読んだとき、当時のことが走馬灯のように蘇り、涙が止まりませんでした。まるで10年前にタイムスリップしたかのように。あの頃は、私の人生においてどん底だったかもしれない。でも、ハタチの私から10歳の私にメッセージを送るとしたら、心配しないで、私ちゃんと生きています。高校では、自分の人生を大きく変える大切な友達にも出会います。些細なことでもお母さんと大喧嘩することもありました。第一志望の看護学校に合格し、夢が1つ叶います。看護師になるまであと1年。今までになく、必死に勉強しています。これまでの人生の中で一番勉強している時期かもしれません。泣きたい、逃げ出したい、そう思うこともたくさんあります。でも、患者さんのある一言で私は救われます。家族、友達、先生、患者さん、色んな人に支えられています。私は今「生きています」。ハタチの私、すごく幸せです。強く優しい看護師になります。と10歳の私に誓います。

輸血経験者から感謝のメッセージ

群馬県太田市在住の富澤清一さん。定年後の平成25年11月、大動脈解離を発症し、緊急手術の際に輸血を受けました。その輸血量は400ミリリットル献血45人分に当たる18リットルに及んだそうです。医師からは歩けるようにならないとの宣告を受けましたが、リハビリの末、杖を突いて歩くまでに回復しました。

富澤さんは「献血された方の気持ちが患者に勇気を与え、元気のもとを与えています。名医がいても、血液がなければ助かるいのちも助かりません。日々の幸せを実感し、感動し、感謝しながら過ごしています」と献血者への感謝の気持ちを語ります。



現在、青少年赤十字賛助奉仕団や防災ボランティア、アマチュア無線奉仕団で活躍し、子どもたちに献血の大切さを伝えている富澤さん

国連世界人道サミット 効率的・効果的な支援のあり方などを協議 近衛社長（連盟会長）が本会議で発言



国連世界人道サミットが5月23、24日にトルコのイスタンブールで初めて開かれ、国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）を代表して出席した近衛忠輝社長（連盟会長）が本会議、円卓会議で発言。「ニーズを増す人道支援に対応していくため、地域社会の能力強化やボランティアの安全確保などが欠かせない」などと指摘し、連盟としてこれらの課題に取り組んでいく決意を表明しました。また、女性がその能力を発揮できる環境づくりへ、赤十字としてジェンダーや多様性を考慮した支援に取り組んでいく方針を明らかにしました。



本会議で発言する近衛会長。移民への人道支援拡大などについても言及した



現在、人道支援を必要としている人は世界で1億人。また、故郷を追われて国内外で避難生活を送る人の数は、第2次世界大戦後で最悪の水準に陥ったといわれています。こうした中、一人でも多くのいのちを救うため、効率的・効果的な人道支援のあり方を考えようというのが、今回開催された世界人道サミットの目的です。国連として初の試みとなる会議であり、各国政府(国連加盟国のうち173カ国/55カ国は元首級が出席)、国際機関、人道支援団体、研究機関、NGO、被支援者、企業など約9000人が参加しました。日本からは政府代表として福田康夫元総理大臣が出席。赤十字からは、近衛連盟会長を始め、赤十字国際委員会(ICRC)、72カ国の赤十字・赤新月社から120人を超えるメンバーが参加しています。

主要議題は、紛争を予防・解決するためのグローバルリーダーシップなど5点です。その中の一つとして掲げられた「届ける支援から、人道ニーズ解消に向けた取り組みへ」は、中長期的な開発支援により人道危機の芽を事前に摘み取るという考え方。この方向に沿って「人道」と「開発」の2つの分野を資金面で融合を促すことや、資金の流れの透明性の拡大などが盛り込まれた「グランド・バーゲン」(重要取引)と呼ばれる基本文書が主要国などにより署名されました。

他の人道支援団体との連携・強調にも言及

国連によると、人道援助に必要な資金は過去15年間で12倍に増大。現在、必要資金の400億ドルに対し、150億ドルが不足している状態です。連盟の資金調達も同様の問題を抱えていて、昨年発表された緊急アピールの充足率を見ると、アフリカ地域が36%、アジア地域が67%と低く、特にセネガル、ガンビア、モーリタニアの充足率はわずかに数%にとどまっています。

グランド・バーゲンは、個人や民間企業への資金提供の呼びかけ、イスラム圏からの支援拡大などを提起するとともに、資金の透明性を高めるための「共通の単一システム構築」などを提唱しています。近衛会長は、国際赤十字として「グランド・バーゲン」の考え方に基本的に賛成する意向を表明。「連盟の課題はイスラム圏や新興諸国の社から資金を取り込み、彼らと既存の支援社の協働態勢を作り上げること」と述べました。また、効率的な資金活用、重複投資の回避へ、国境なき医師団や国連機関など他団体との連携・協調の強化に取り組んでいく姿勢を強調しました。

赤十字への信頼、優位性維持も大切に

一方、グランド・バーゲンに盛り込まれ

たいくつかの提起には、懸念材料も。その一つが国連が提唱する「ひとつのシステム」の中に赤十字の人道支援活動が組み込まれてしまうことのデメリットです。

国際赤十字や各国赤の多数は「赤十字は基本原則に則った草の根活動を長年にわたって展開しており、このネットワークを長所として生かすことこそが最適」「(国連との共同により)赤十字・赤新月としての信頼や自由度がそなわれることは避けるべき」としています。



トルコ赤の炊き出しも

Voice & プレゼント

Voice 赤十字NEWSにお寄せいただきました読者の皆さまの声をお届けします。

- 世界に派遣されている要員の方がたの笑顔がとても優しく、生き生きとしていらして心打たれました。 — 坪内周子さん（鳥取県）
- 赤十字に「ゆるキャラ」が居たなんて驚きました！堅いイメージがりましたが、一気に和らぎました。 — 川口美由紀さん（和歌山県）

プレゼント 「株式会社タカラトミーの献血バス」を5名様にプレゼントいたします。右記の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。



- ①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください） ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
- ④年齢 ⑤赤十字NEWS7月号を手にした場所（例/献血ルーム）
- ⑥7月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？（いくつでも）
 - ④ 今月の出会い
 - ⑤ 熊本地震 健康支援事業
 - ⑥ LOVE in Action Meeting(LIVE)
 - ⑦ ANAすずらん贈呈
 - ⑧ 健康豆知識 脳梗塞
 - ⑨ 平成27年度 日本赤十字社の決算概要
 - ⑩ 特集いのちを救った体験者の声
 - ⑪ エリアニュース
 - ⑫ 全国看護学生作文コンクールで最優秀賞
 - ⑬ 輸血経験者から感謝のメッセージ
 - ⑭ 国連世界人道サミット
 - ⑮ Voice&プレゼント
 - ⑯ インドネシア・コミュニティ防災事業
 - ⑰ 新連載 人道支援の現場から
- ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice（読者の声）への投稿もお待ちしています。

応募先 ● 郵 送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS7月号プレゼント係 FAX/03-6679-0785 メール/koho@jrc.or.jp(件名「赤十字NEWS7月号プレゼント係」)

応募締切 ● 7月25日(月)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

WORLD NEWS



インドネシア・コミュニティー防災事業 地域理解・協力のカギは現地採用の日赤職員 スマトラ島で第2期事業スタート

日本赤十字社が海外で取り組むさまざまな支援事業。熱い思いをもって活動に取り組む、支援先の国の赤十字社職員や日赤の現地職員がいることをご存じでしょうか。2012年からインドネシア赤十字社（インドネシア赤）とともに進めているコミュニティー防災事業では、2人の現地職員が事業の進捗管理や住民との意見調整など、日赤と地域の橋渡し役を務めています。2人の事業にける思いを紹介します。

津波にさらされた故郷のため 人道支援の世界へ

インドネシアは日本同様、地震や火山噴火、洪水など多くの自然災害リスクを抱えています。14カ国の23万人が犠牲になった2004年のスマトラ島沖地震・津波災害では、インドネシア一国だけで17万もの住民が犠牲になっています。

日赤インドネシア事務所のコーディネーターを務めるアフルディーンさんも、この時の津波に襲われた一人です。「故郷のアチェ州は最大の被災地になった地域。その日は私の結婚式で、実家に向かう途中で津波に遭い、必死に逃げました」

津波被害後に同州の人道支援団体で働き始め、複数の組織で経験を積んだのち、4年前から日赤職員に。「誰かの役に立ったり、人びとの生活の手助けができることは、私の人生の意味を高めてくれる」と活動のやりがいを語ります。

今年から日赤事務所で働き始めたヤナ・マウラナさんも10年近い人道支援活動のキャリアを持ちます。地震と津波で破壊された故郷を助けたいとの思いから国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）の仮設住宅事業に携わり、以降各国赤十字社の支援事業のサポートを続けてきました。「赤十字は私の人生から切っても切れない存在」と言い切ります。

現地赤、行政からも熱い視線

コミュニティー防災事業は、住民が

中心となって身の回りのリスクを洗い出し、解決策に向き合うことを通じて、災害からの回復力*を高めていく取り組みです。2012年にスタートし、ジャワ島・バンテン州を対象に、住民の防災意識の向上、住民自らが計画した防災活動の実施などに取り組んできました。これまでに川の分水路造成や避難用ボートの整備などを支援し、洪水被害の軽減の成果を上げています。

今年4月からは、事業地を地震と津波のリスクを抱えるスマトラ島のベンクル州に移した第2期事業が始まりました。インドネシア赤のアリフィン防災課長は「地震と津波が発生する可能性が高い沿岸部での防災事業を、一刻も早く、より多くの地域で実施したい」と意気込みます。地域や行政の期待も高く、事業開始を宣言した4月の会合にはベンクル州の副知事も参加。積極的な支援を約束しました。

日赤現地事務所の2人も「これまでの経験を生かし、ベンクル州が地震や津波への対応力を高められるよう全力で貢献したい」（ヤナ・マウラナさん）、「地域行政や他団体などパートナーと連携しながら、この事業をより高い効果をもたらすものにしたい」（アフルディーンさん）と抱負を語っています。

*災害のインパクトを軽減し、適切に対応し、逆境から立ち上がる力



1 日赤の現地職員アフルディーンさん
2 日赤の現地職員ヤナさん
3/バンテン州/パンデグララン県に整備した洪水時避難用ボート
4 今後の協力を決意し、ともに歩き出すインドネシア赤防災課長(左)、インドネシア赤理事(右)、ベンクル州副知事(中央)



片岡 昌子

Masako Kataoka

ICRC パレスチナ・ガザ地区代表部
保護活動担当

かけがえのない普段の「当たり前」

現在私のいるガザは、占領下のさまざまな苦難を抱えています。例えば「また明日ね」という挨拶には、「神さまの思召しなら」という言葉が返ってきます。明日会えるかどうかは神のみぞ知る。幾度も戦争に巻き込まれ、日常が突然壊される体験を繰り返してきた人びとにとって、今日と同じ明日は当然のことではありません。こうした人びとを通じて気づかされるのは、私たちの思っている「当たり前」が、決して当たり前ではないということです。水や電気、食料に困らない生活、安心して住める住宅、学校での勉強、身近な病院、自由に旅行できること、そして家族や友達に会えること。そのすべてが、かけがえのないことなんだと痛感させられます。

赤十字国際委員会（ICRC）の活動は、経験豊かなパレスチナ人現地スタッフに支えられています。常に誰よりも最前線で活動する彼らは、多くのことを教えてくれるすばらしい先生です。自らも

紛争被害者でありながら、赤十字の理念を信じ、忍耐強く、真摯に仕事に取り組む彼らの姿から私はあきらめない強い心を学びました。彼らとの出会いは人生の宝物です。

ガザでのICRCによる人道支援は、そこで生活する人びとの声を聞くことから始まります。毎日、現地スタッフとともに車を走らせ、畑で農作業をする人や羊飼い、漁師、若者、パレスチナ赤新月社のボランティアら、いろいろな人に会いに出かけます。日赤の支部に勤務していたころ、赤十字の活動が地域のボランティアの皆さんや学校の先生、寄付を寄せてくださる市民の方がた、いろいろな人たちに支えられていることを学びましたが、ガザでの活動も同じ。地域の人びとの信頼関係が私たち赤十字の礎です。グローバルな視点を持ちつつ、活動は地域密着。そこが赤十字の魅力なんだと感じています。

人道支援の現場から